

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月12日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401822		
法人名	社会福祉法人 楽々会		
事業所名	グループホーム 楽苑		
所在地	〒859-1402 長崎県島原市有明町湯江乙1138 (電話) 0957-68-0313		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年4月14日

【情報提供票より】(H20年 4月 12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算 3.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900円	

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	6名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 85.8歳	最低	75歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関


協力医療機関名	貴田神経内科病院・くすのきクリニック・スマイル歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム楽苑は「楽苑は楽しい苑(ところ)楽しくなければ楽苑じゃない」という理念のもとに入居者と共に楽しく日々を過ごされている。当ホームの建つ場所は周りが畑に囲まれ、日中は静かである。すぐ横には公民館があり、地域の集まりにも参加しやすい。また雲仙や有明海を一望でき、ゆっくりと時が過ぎせる。建物も採光がよく、明るい。またペアガラスを使っているため夏は涼しく、冬も床暖房を使わないでも十分に過ごしやすい。中庭には東屋があり、穏やかな日には入居者と共に集まり、楽しく会話ができる。併設のデイサービスと合同でイベントをすることで、地域の方々との交流もとれる。また当ホームの職員は体操の先生をされたり仮装の出し物をしたりと、入居者がとても楽しみにしている催しものが多い。職員は全員女性で、コミュニケーションがよくとれており、理念通りに入居者とともに楽しく過ごしているグループホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価に対しての改善計画シートはとくに用意されていないが、当ホーム独自の改善計画シートを用意され、日々のケアに対する職員間での質の向上に取り組みされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各棟の職員一人ひとりがコピーされた自己評価票の評価項目に書き込みをすることで、日々のケアの振り返りの機会として真摯に取り組み記入がなされた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、家族代表、自治会会長、地域包括支援センター職員、管理者、職員を参加メンバーとして会議が開催されている。ホームからは入居者並びに活動の状況が報告され、質疑応答が明確に記録されている。運営推進会議を行うことで当ホームでの暮らしづくりを知っていただく機会となっている。また運営推進会議で自己評価や外部評価の説明がなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会も比較的多いため、職員が口頭で直接様子を伝えることも多いが、家族の連絡簿を使って大切な事は伝えるように工夫されている。当ホーム内に意見箱の設置をし、相談苦情の窓口を重要事項説明書に明記されている。また面会時に要望などを尋ね、伝えていただいた事には記録(相談内容・日時・申立者・連絡先・調査・処理報告・担当者意見・施設長意見)がなされ、誠実に対応され運営に反映されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に参加され、回覧板を通じて消防関係のお知らせを受けたり、子ども110番の避難場所として事業所を利用されたり、地域とのつき合いを大切にされている。中学生の福祉体験受け入れもなされている。また地域の保育園児との交流でお互いに感動する場面もあり地域とのつきあいを大切にされている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「楽苑は楽しい苑(ところ)楽しくなければ楽苑じゃない」としている。地域との交流(福祉祭りなど)において楽しい雰囲気の中で過ごしていただきたいという思いを込めて作り上げ、ホームにおいてその実践の為の支援の柱として掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や事務所にて掲示されている。楽しく暮らすという理念の実行のために、精神面や身体面でもグループホーム楽苑にいれば安心と言っていただけのように、笑顔で笑いが絶えないように努められている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加され、回覧板を通じて消防関係のお知らせを受けたり、子ども110番の避難場所として事業所を利用されたり、中学生の福祉体験受け入れもなされている。また地域の保育園児との交流でお互いに感動する場面もあり、地域とのつきあいを大切にされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各棟の職員一人ひとりがコピーされた自己評価票の評価項目に書き込みをすることで、日々のケアの振り返りの機会として真摯に取り組み記入がなされた。前回の外部評価に対しての改善計画シートはとくに用意されていないが、当ホーム独自の改善計画シートを用意され、日々のケアに対する職員間での質の向上に取り組まれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、家族代表、自治会会長、地域包括支援センター職員、管理者、職員を参加メンバーとして会議が開催されている。ホームからは入居者並びに活動状況が報告され、質疑応答が明確に記録されている。運営推進会議を行うことで当ホームでの暮らしぶりを知っていただく機会となっている。また運営推進会議で自己評価や外部評価の説明がなされている。		

グループホーム 楽苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは福祉祭りや敬老会などでも顔を合わせる機会が多く、よく声をかけてもらうなど、顔見知りの関係を築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会も比較的多いため、職員が口頭で直接様子を伝えることも多いが、家族の連絡簿を使って大切な事は伝えるように工夫されている。また毎月1度入居者の近況報告やお知らせを写真を載せてたよりを出されている。個々の入居者の家族に管理者が手紙に書いて報告がなされている。状況に応じては電話でも伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当ホーム内に意見箱の設置をし、相談苦情の窓口を重要事項説明書に明記されている。また面会時に要望などを尋ね、伝えていただいた事には記録(相談内容・日時・申立者・連絡先・調査・処理報告・担当者意見・施設長意見)がなされ、誠実に対応され運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が働きやすい環境、意見が出しやすい雰囲気でも何でも言える関係を築かれている。職員間も理解し合いコミュニケーションがとれている。また当ホームに合う人を選んで採用することで、入居者との馴染みの関係が無理なく築けるように配慮されている。新人職員へは他職員がつき共に入居者へ声かけがなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関しては管理者も積極的に参加するよう勤めており、復命書にて費用を支出し、参加した職員には報告書を提出してもらうなどの工夫がなされている。外部研修は一人に対して年2回ほど参加されている。内部研修は毎月1度行われている。いずれも職員が意欲的に研修に参加し、研修によって受けた感動や見直しの共有がなされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会や講習会で知り合えた他のグループホームの職員と交流を結ばれている。当ホームを立ち上げた当初は日々のケアが精一杯で連絡協議会に参加することを見合わせていた。しかし今後は島原市グループホーム連絡協議会に参加したい意向である。		今後は積極的に連絡協議会やケア研究会などに参加され、多くのグループホームで働く職員と交流を重ね、質の向上に取り組まれることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始までに入居希望の方への病院などへの訪問はもちろんのこと、ホームを家族、本人へ見学していただいている。見学の際は、健康体操をご一緒するなど、納得した利用開始へ繋げるように配慮している。また併設のデイサービスで馴染みの関係になっている方が入居されることもあり、すでに顔見知りのため安心してサービスの利用ができる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>年長者としての敬意を払うことを機会ある毎に意識しながら支援にあっている。その中で職員が和服を着慣れていないため苦労していると、入居者が本領を發揮して着付けを手伝っていただいたり、職員の相談役になっていただいたり、入居者と共に支え合う関係が築かれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の基本情報は一見してわかり易くファイルされており、詳細な入居者本人の生活史が家族協力のもと作成されている。統一したケアのためにコミュニケーションを図りながら個々の特徴や気づきを付箋やマーカーを利用し、分かり易く記録し、職員同士の共有化を図りやすいように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員の気づき、本人の意向や要望を取り入れ、毎月のケアカンファレンスにおいて意見交換や記録を考慮し、計画作成をおこなっている。特に本人の自立心を呼び起こすような介護計画が作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1度、または状態変化に伴い、見直しをおこなっている。毎月1度モニタリング・評価を行っている。また「今月の目標」を介護計画から抜き出し、日誌に貼り付けることで介護計画を意識した記録がなされている。</p>		

グループホーム 楽苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	福祉まつりへ職員の催し物で参加、それにより入居者が時節を把握され、また楽しみにもされている。体操の指導資格を持つ職員が健康体操を取り入れ支援している。また併設のデイサービスが休みの時は希望で機械等の利用ができるなど、多機能性を活かした支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医と当ホームが情報交換を行うことで継続したかかりつけ医への受診支援がなされ、安心できる医療体制が整えられている。提携医の往診が1ヶ月に1度ある。掛かりつけ医や看護師から報告された内容はカルテや当ホーム独自の看護師連絡ノートに記録して家族に報告がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して当ホーム独自の指針を用意され、本人や家族の同意をいただいている。また協力医と相談し、連携ができるように配慮がなされている。職員もエンゼルケアについて湯棺師より指導を受けるなどの取り組みがある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りを損ねることがないよう、笑顔と柔らかい会話や声のトーンに注意がなされている。個人記録は事務所にて保管されている。女性の方へは以前、家事の時使っていたエプロンを利用し食事介助用エプロンとして使うなど細やかな配慮がなされていた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、起床時間や入浴の順番、趣味(写経)など自由にゆったりと過ごしていただくようにしている。		さらに今後はその人らしい暮らしぶりの把握を深めるため、職員一人ひとりが入居者に関して知り得ていることを共有し合うことで、より入居者の希望に添うことが望まれる。

グループホーム 楽苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者同士、また職員と会話を楽しみながら穏やかな食卓でのひと時を楽しむ支援がなされている。食事は、ホームのキッチンで職員が作られている。可能な限りで入居者にも手伝っていただき、お吸い物やおやつ作り(干し柿など)をしている。また時にはお弁当をもって外食することもある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者が朝風呂や一番風呂など、こだわりを持っている方もおられ、希望に応じてほぼ毎日入浴が出来るよう柔軟に対応し支援している。状態によって入浴出来ない場合は清拭や部分浴などで対応がなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや花の水やり、庭の清掃や接待など、筋力低下を防ぐ目的も含め生活感を大切に支援を念頭に、可能な限り家事に参加いただいている。また化粧をしたり、レクリエーションなどで楽しみながら日々支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候によっては花見や散歩に出かけている。またペアガラスがはめられている廊下は日の光が良く入るため、日向ぼっこができる。中庭には東屋があり、自由に戸外に出られるように支援がなされている。また入居者の行きつけの理美容院へ出かけることもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に施錠はされていない。昼間は職員の見守りに加え安全対策として玄関にセンサー感知のチャイムを設置している。センサーが設置されていない出入口は張り紙などを利用し、鍵を掛けないケアに取り組まれている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練や避難訓練の記録(写真付き)がある。また地震や風水害のマニュアルも作成されている。事業所内にはパッケージ消火器があり、火災訓練時に練習されている。また消防学校で職員4名が研修されるなど災害対策がなされている。		

グループホーム 楽苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は保健士からの指導もあり、減塩食や糖尿食などの対応がなされていることもあり、1日を通じて栄養や水分量などの確保がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の中心に坪庭があり、樹木の中に置石・東屋があり、足元には小鳥なども降りて来て、室内からでも入居者を和ませている。自然の遮光を浴び、思いのままくつろいだり楽しくお喋りをしたり、1年を通じて快適に過ごされている様子が伺える。入居者が集まる食堂には床暖房なども完備されているが、自然の空調条件にも恵まれあまり使うこともなく、天井は高く、畳や休息用ソファベッドなども有り、利用されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の持ち込みは、趣味の装飾品から嗜好品・使い慣れた家具、仏壇などで、居室は住み慣れた生活空間として、身の回り品が手の届くところに並べられ、作業り八ピリのため湯のみ等の洗い物の出来る場所まで設けられている。		